

平成20年7月30日
独立行政法人農畜産業振興機構

野菜需給協議会幹事会概要

1 日時

平成20年7月30日（水） 11:00～12:00

2 場所

農畜産業振興機構南館1階 会議室

3 出席者

別紙のとおり

4. 概要

主要な野菜の価格動向について、去る6月30日に開催した第4回野菜需給協議会においておおむね前年、平年を上回って推移していることを報告したところだが、その後東北・北海道などの主力産地の生産・出荷が順調である一方、気温の上昇等により消費が停滞していること等から、特に夏だいこん、夏はくさい及び夏秋レタスの価格が平均価格を著しく下回る状況となった。このため、下記により野菜需給協議会幹事会を開催し、直近の需給状況の周知や価格低落時の消費拡大への取組等について協議した。その議事は以下のとおり。

【事務局】「最近の野菜の需給・価格動向について」及び「夏野菜の主産地及び消費地の気象状況」説明。

【全 農】(資料1-3参照)

資料1-3に沿って「夏野菜の生産・出荷状況について」説明する。(資料1-3参照)

だいこんは、7、8月は北海道、青森が主であり、その2県の動向で大体予測がつく。特にこれからは北海道であるが、北海道のだいこんの主産地は、函館、倶知安、帯広であり、帯広がやや多い産地である。地区毎の気象の変化が出荷に影響を与え、それが東京・大阪の市場価格に繋がっているが、消費の低迷もあり、価格が大幅に下がっている。

はくさいは、長野県の出荷動向で動きが見える。価格の傾向はだいこんと同様であり、7月に入荷量の上昇とともに低落した。今後の動向としては、長野県高冷地での作柄や8月の高温期がどうなるかで決まってくるだろう。今の時点の見通しでは例年並に落ち着くと思っている。

レタスの主産地は長野県であるが、長野県に続く、群馬県、岩手県の荷動きが悪

い。夏野菜は総じて天候の影響が、特にレタスは影響が強いので注意が必要である。8月下旬までには落ち着くと思っているが、天候による左右が大きい品目なので、産地との連絡を密にし、状況を捉えていきたい。

また、だいこんについては、現在市場隔離を検討中である。北海道と青森を対象に概ね300tで調整している。有効利用として北海道は加工販売向け、青森は病院、福祉向けを検討している。

【中村座長】

以上の状況を踏まえて意見を聞きたい。市場の状況はどうか？

【篠原委員(全国青果卸売協会)】

大田市場では、6月までは、4、5月の低温の影響により前年を下回る入荷量により、価格も概ね順調だった。7月に入り、遅れていた産地と順調に生育をしていた東北、北海道が重なり、海の日前後から野菜の入荷量が急増した。また、天気も良く、気温が高かったため、消費地である東京に到着した時点から品質劣化も早かった。消費の低迷については、夏休みになったこと（学校給食がない）、気温が高く推移していることなどの影響が大きく、店から引き合いの強い品目はすいかなどに集中した。

だいこんについては、主産地である青森と北海道の動向で今後の動向が分かる。青森は、平場地区の出荷がほぼ終了、また自主調整を行っているので、北海道の動向如何である。北海道の主産地の作況は、釧路地域は天候不良により最も市場で人気のある2L発生率が低く、反対に羊蹄地域では2Lが抽苔（花茎が伸びだし商品価値がなくなる）しており、市場で一番欲しい規格が少ない。M・Lサイズ中心のため平均価格がアップしにくい。この夏だいこんは厳しいかなと思っている。はくさいは、今年だけでなくこの時期は最近数年苦戦している。漬物、キムチが業務用で使われるのだが、特に漬物で需要が減少している。減少している状況の中で入荷量が多い。

また、北海道について言えば、だいこん、はくさいだけでなく、いも類、たまねぎ、にんじんと今年は作柄がよい。特ににんじんは心配である。

青果の価格については、品目によってはお盆までは厳しいと思っている。ただ、この話は市場経由率が7割の市場の話なので全てではない。（販売ルートが多様化が進んでいる）

更に、昨今の流通の変化を受けて、保管（在庫）調整機能が弱まるなど、市場の構造的な変化もあり、今後一層市場機能の活性化を図りたい。

【中村座長】 農畜産業振興機構、全農、卸売市場の説明は生産者の立場になりがちだが、消費者のほうはどうだろうか？

【菅委員(全国消費者団体連絡会)】

野菜の価格が安いことは消費者にとっては嬉しいことである。だいこんが大きくなりすぎて価格が下がっているということだが、それも消費者には嬉しいニュースだ。ただ、だいこんと聞いて、夏場の料理方法が分からない。だいこんというと、秋冬の料理は挙げられるが、夏の料理というと思いつかない。

【中村座長】

今、発言があった消費拡大については次の議題で扱う。

【下条委員(日本生活協同組合連合会)】

消費者の立場から言うと、卸売価格が安くても、店頭の数値からは分からない。豊作といっても、実際に店頭で沢山並ぶわけではない。

【小笠原委員(日本チェーンストア協会)】

7月に入り、暑くなり、消費者も暑い日中買い物に出ることを避けている。4時前の来客数の減少が、一日の来客数の減少につながっている。また、今売れているのは、飲み物、蕎麦、ソーメンといったものである。青果物では、果物、それも水っぽいものと蕎麦やソーメンの薬味類であるしょうが、みょうが等である。熱を加えて調理しないといけない食材は売れていない。それがはくさい、だいこんにも関係している。客が来ない、買わない、売れないので価格が下がっている状況である。

【事務局】

卸売価格と小売価格が連動していないということはよく言われるので、参考1に資料を作成した。データ基のサンプル数や取り方に問題があるか分からないが、このデータから見ると、それなりに価格は平行である。

【小笠原委員】

店舗では、安定した価格を客に提供したい意向があるが、値付けに市場の動向は参考となっているので卸売価格が上がれば、小売も上がり、下がれば下げるといったように基本的に連動している。

【中村座長】

それではそれらを踏まえて次の消費拡大についての議題に移りたい。

【事務局】

機構としては、「緊急アピール」として別紙をプレスリリースで発信するとともに、資料2-1を添付して広く消費拡大の喚起をしていきたいと思っている。(資料説明)

【金山委員(全農)】

全農としても資料2-2にあるとおりHPに、野菜がお買い得なのでたくさん食べてほしい、との内容をアップした。このHPを通じてJAグループは農水省の「冷房ほほどクールベジ」や東北6県による「暑い夏にはきゅうりビズ」等についてもお知らせしている。ホクレンはラジオを使ってだいこんの消費拡大、また長野ではレタス、はくさいについて消費宣伝を行っている。全農本所でも8月31日の野菜の日に向けて全国的に消費拡大を図るべく、店頭での食育活動や全国各県での統一行動を行う企画を持っている。このような活動を進めていきたいと思っている。

【藤島委員(東農大)】

小売業界へのお願いであるが、資料などでもあるようにkg単価は卸売価格と平行ではあるが、店頭では売価を198円などに安定させるため、重量を変化させて対応している。このような販売方法だと、安い時に安さが伝わりにくい。「今日は、こ

の野菜がこんなに安い」といった消費拡大につながらない要因となっている。小売業界には、価格の変動が分かるような売り方をして欲しい。

【菅委員】

この資料を見ると、誰に向けて、発信しているのか分からない。これを使って広く呼びかけても、「価格の低迷」、「市場隔離」といった難しい言葉は一般に使われない。誰に一番分かってもらうことが最も効果的なのかを念頭に置く必要がある。

【中村座長】

藤島委員が言うとおおり、何が今安くて、消費者にとってお得なのかが分かる売り方やアピールの仕方が大事である。

【小笠原委員】

家計調査でも出ているが、消費する単位が減少している。単身世帯の増加、高齢化などの影響であり、4つ切りが8つ切りになっている。例えば、ピーマン5個売りを7個売りと量を多くしたからといって売れるかは難しい。

【事務局(木下理事長)】

文言は変更し、できるだけ消費者が価格の動向や野菜の良さが分かるような告知をしていきたい。たとえば、全農作成のペーパーを見ると、消費者に分かりやすく作成されているので参考にしたい。

【中村座長】

資料の中で使われている「緊急」という言葉だが、もっと深刻な状況になった時に使いたい。例えば、高騰時といった場合など。

【藤島委員】

資料を見ると、現在の価格は指標価格を下回っているが、その指標価格は更に生産出荷経費を下回っている。もっと再生産を考えた指標価格を作成するべきではないか。また今後は気象の変化と消費の動向、生産の動向に関するデータを蓄積し、それを基に価格の行方を予想することによって、できるだけ早く幹事会を開催し消費拡大を早い段階で訴えていくことが重要である。

【中村座長】

それでは、プレスリリースについては修正したうえで発信することとし、修正確認については、内容の是非は座長である私に一任してもらってよろしいでしょうか？

【各委員】

異議なし

【下条委員】

食育の観点から一つ聞きたいが、旬の野菜を食べましょうということで食育を進めているが、だいこんは夏は旬なのか？今まで伝えてきたことと差異が出てしまうと困る。北海道では現在旬ということなのか？

【中村座長】

地域によって獲れる時期は差がある。

【篠原委員】

道内から道外に出るようになったのは運送技術が発達したからであり近年のことである。

【中村座長】

いずれにしろ、旬であることが分かるような一文を入れてもらい、公表することにする。それでは、このような状況を踏まえて、それぞれの分野で少しでも消費が拡大するよう尽力していただきたいと思う。

これで幹事会を終了とする。

野菜需給協議会幹事会出席会員名簿

〔生産者団体〕

全国農業協同組合連合会

〔消費者団体〕

全国消費者団体連絡会

日本生活協同組合連合会

〔食育団体〕

(財) 食生活情報サービスセンター

〔流通団体〕

(社) 全国中央市場青果卸売協会

〔食品団体〕

(財) 食品産業センター

〔小売団体〕

日本チェーンストア協会

〔需給調整制度関係団体〕

(社) 全国野菜需給調整機構

〔学識経験者等〕

中村靖彦 東京農業大学客員教授 (座長)

藤島廣二 東京農業大学教授 (座長代理)

〔行政機関〕

農林水産省

〔事務局〕

独立行政法人農畜産業振興機構 (野菜需給部需給推進課)